

特別企画

障がい者スポーツに取り組むクラブ

NARUTO総合型スポーツクラブ ＜徳島県鳴門市＞

総合型クラブは、障がい者スポーツの推進などの様々な地域課題の解決に向け、地域スポーツ団体等と連携を図ることが重要となってきます。また、地域コミュニティの核として期待されている総合型クラブは、地域の障がい者がスポーツに親しむことができる環境を今後さらに提供することも望まれております。

そこで今回は、障がいのある方も活動しているクラブについてご紹介いたします。

1 クラブ概要

スポーツ推進委員会を中心に平成27年に設立 4つの分野で教室を始動

NARUTO総合型スポーツクラブは、鳴門市スポーツ推進委員会が中心となって設立したクラブです。スポーツ推進委員会として地域住民のスポーツ推進に取り組む中、もっと多くの住民がスポーツに親しむことのできる場所を提供したいとの思いから、「いつでも・だれでも・どこでも」参加できる地域コミュニティの場をつくり、みんなの力で、支え合い・助け合い・協力し合い・分かち合い・教え合う、活力ある街づくりを目指すことを目的に平成27年に設立しました。

クラブの目的を達成するための事業として、①こどもの健全育成 ②競技スポーツの推進 ③健康づくり、体力向上 ④地域のコミュニケーションの4つの分野を設定し、様々な教室が始まりました。参加者同士のつながりや口コミで会員数も増え、現在(令和2年度)653人です。

2 障がい者の希望で野球チームを結成

下肢障がい者との出会いが契機に

クラブを設立した平成27年に、クラブ事務局員と下肢障がいのある方との出会いが障がい者スポーツに関わるきっかけとなりました。その方が、仲間を集めて自分たちも野球がしたいとの思いから、障がい者野球チーム「徳島ウイングス」を結成するとともに、徳島ウイングスはNARUTO総合型スポーツクラブの団体会員となりました。

メンバーが自主運営 クラブは側面からサポート

日頃の定期的な練習などは徳島ウイングスのメンバー自らが参画して運営し、クラブとしては、他団体との連携活動やチームの強化練習プログラムの提案、健常者チームとの練習試合や大会支援などを行っています。また、広報活動にも積極的に取り組み、地元新聞へ活動紹介等の記事を掲載していただいたことで、多くの方に障がい者野球チームが定期的に活動していることを知ってもらい、少しずつ新たなメンバーやボランティアが集まりました。

初めて開催した野球大会に県外チームも参加

クラブとして、初めての大会運営となった「第1回障がい者軟式野球大会」では、徳島ウイングと県外から障がい者野球2チーム（神戸コスモスと愛媛ブレイド）の計3チームが参加するとともに、運営スタッフとして地元の県立高校野球部や各種団体から協力をいただき、どうにか無事開催することができました。

球場外の病院や商店のトイレも確保

この大会を開催した球場には、簡易な仮設トイレのみ設置されていて、下肢に障がいのある方が利用する場合、近くの病院や商店に予めトイレを使用させてもらえるように依頼するなど運営側としてできる準備はしましたが、内心「本当にこんな対応で良いか」と大変悩みました。そんな時、チームの方たちから「僕たちは元々、何も無いところを工夫してきました。今回も野球ができることがうれしくて、トイレ対応のことは何も心配しなくていいですよ」と言っていただきました。さらに、そのことを知った他県チームの方たちからも同じような言葉をかけていただき、その言葉に胸が熱くなったことは今も忘れられません。



第1回障がい者軟式野球大会 鳴門市営球場

車いすバスケのメンバーもクラブ会員として活動

障がい者スポーツに関わり6年が経過し、今では「第1回障がい者軟式野球大会」を開催した鳴門市営球場にも多目的トイレが設置され、誰もが安心して利用することができるようになりました。設置された経緯ですが、第1回障がい者軟式野球大会を開催した際、鳴門市の行政担当者の方が誰もが利用可能な仮設トイレの設置を検討していただいたこともあり、鳴門市スポーツ施設の改善を図る際に多目的トイレの設置に向けて検討していただけることとなりました。クラブ事業でも障がい者の定期的な活動場所として市営球場を使用していたことで、2019年に多目的トイレが設置されました。

また、徳島ウイングスも設立当初7人だったチームメンバーも、現在22人となり、全国大会にも出場することができました。

その後、車いすバスケットボールチームのメンバーとの出会いがあり、障がい者野球チームのメンバーと同じようにクラブの会員となり、クラブが練習場所の確保などの課題を解決するとともに、他県の車いすバスケットボールチーム等との合同練習会や体験会を開催し、障がいの有無に関わらず誰もが親しめるスポーツ機会として定着しています。

障がいの有無に関係なく会員自ら運営に参画

クラブでは、会員自らが教室などの運営に参画しています。障がい者スポーツの取り組みも同様に「みんなの力で楽しくスポーツを盛り上げる」。これは障がいがある人もない人も何も変わりありません。

クラブの事業は幼児から高齢者まで様々な教室があり、そこに障がい者スポーツがあります。様々な教室に参加している子どもたちが保護者と共に、障がい者スポーツの競技種目を体験する機会を創出したり、クラブハウスに車いすを使用される方が来て雑談するなど、障がいの有無に関わらず自然とスポーツを通じた地域コミュニティの醸成ができています。

地元のプロ野球独立リーグチームと事業提携や市町村行政との連携

障がい者野球チームの活動においても、プロ野球独立リーグ・四国アイランドリーグplus所属の「徳島インディゴソックス」と障がい者野球を広めるための事業提携を行い、徳島インディゴソックス選手と同じユニホームを着用して試合に出るようになりました。また、徳島インディゴソックスのスポンサーからも競技用車いす3台を寄付していただくなど、活動に必要な用具等も充実しました。

また、鳴門市行政の協力を得て、市内の小学校の児童を対象に「障がい者交流授業」を開催することで、障がいへの理解を深めてもらうなど、障がい者スポーツの普及・啓発にも貢献しています。

新たに車いすソフトボールチーム結成へ

さらに、障がい者スポーツを推進する総合型クラブの新たな挑戦として、四国初の「車いすソフトボールチーム」の結成に向け、県外チームを招へいして体験会を開催するなど、車いすソフトボールのチーム結成に向けて動き出しています。

四国初の「車いすソフトボールチーム」結成は、障がい者スポーツに関わったときから考えていましたが、10人制の競技に1台25万円以上もする車いすをそろえることはクラブにとって大きな課題でした。昨年、障がい者スポーツを応援したいと、子どもの教室に来ている保護者でもある地域の会社社長から申し出があり、4台の競技用車いすを寄付していただきました。これで健常者を交えて同じフィールドでプレーできる車いすソフトボールチーム結成に取り組む準備も整いました。

障がい者スポーツ事業に取り組み、たくさんの方々の支援をいただき、自分たちが暮らす身近な場所で、スポーツを行いたい障がい者の方の笑顔が見られることは、クラブにとってうれしいことです。



インディゴソックストレーナーの野球指導



小学校での障がい者交流授業
障がい者競技スポーツ体験



車いすソフトボール体験会

障がい者スポーツはまだまだ認知度が低く、身近なところでスポーツができることを知らない障がい者の方もたくさんいらっしゃると思います。

今年はパラリンピックが開催され、障がい者スポーツ・パラスポーツへの興味・関心が高まると思います。私たちも、障がいの有無に関わらず、誰もが共に身近な場所でプレーできるスポーツの体験会や大会開催等を通じて認知度を上げるチャンスと考えています。

地域共生社会の実現に向け財源確保が課題

クラブでは障がい者スポーツを推進していくための予算が無いことから、今後、各種大会運営等の財源確保が課題となりますが、地域共生社会の実現を目指して頑張っていきます。

(NARUTO総合型スポーツクラブ クラブマネジャー 山本 恵美)

クラブプロフィール

設立年月日 平成27年4月1日

所在地 徳島県鳴門市鳴門町高島字北577

運営 会員数653名(令和3年3月現在)、予算規模15,756,501円(令和2年度)

特徴

- ・ 幼児から高齢者(障がい者を含め)まで、誰でも参加できる教室を開催しています。
- ・ クラブ会員に登録すると何種目でもスポーツを楽しむことができます。
- ・ 複数の教室に参加する会員が多くいます。
- ・ 会員から教室やイベント開催の要望があり、それをクラブ事業に取り入れ、会員と一緒にクラブを盛り上げています。

連絡先 〒772-0051 徳島県鳴門市鳴門町高島字北577

TEL 088-683-6878

URL <https://sc-narutoclub.jimdofree.com/>

E-Mail cs-naruto@md.pikara.ne.jp